

第29号

会報

めいおんの会

発行 令和3年3月22日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

教職課程の現状について

名古屋音楽大学特任教授 川合 恒之 (S58 卒)

ご存じのように、平成10年に教育職員免許状取得者に「介護等体験」が義務化されて以来、20年ぶりに教育職員免許法及び同法施行規則の改正が行われ平成31年4月1日に施行されました。教職課程に新たに加えられた内容の例としては、・小学校の外国語(英語)教育・ICTを用いた指導法・特別支援教育の充実・学校安全への対応・道德教育の充実・アクティブラーニングの視点に立った授業改善・学校と地域との連携・チーム学校運営への対応・学校体験活動等です。学生の学年で言えば、令和2年度の2年生から新しい教職課程となり、より一層、学校現場で必要とされる知識や技能を養成課程で獲得できることが大学には求められています。

このように学生にとっても、今まで以上にすべきことが増える中、名古屋音楽大学では、例年全体の6~7割の学生が教職を履修しています。学生たちの状況で言えば、教員になることを目指して懸命にがんばっている学生もいますが、多くの学生は、教育職員免許を取得することを目的にしています。思い返してみれば自分自身もそうでしたが、本大学は主となる専攻がある中での教職課程となるのは仕方のないことだと思います。

今年度は、演奏という機会自体が難しいことでしたが、できるだけ多くの学生たちの演奏を聴きに足を運びました。そこには普段自分の講義で目にしているものとは違う学生たちの姿がありました。名音大の学生たちがもっている高い能力を改めて感じるとともに、その気になれば素晴らしい教員になれると確信できる瞬間でもありました。きっかけはいつ訪れるか分かりません。実際、教育実習を終えた4年生の学生の多くが「実は教員という仕事は考えていなかったけれど、やってみようかなと思う」と報告に来てくれました。教育職員免許をもっていれば可能性があるのです。

教員は限りない可能性をもった子どもたちの、人生に関わる仕事なので、生半可な覚悟ではできません。しかし、子どもたちの未来に携わる大きな喜びとやりがいを感じることができる仕事です。講義を通して、教職を真剣に目指している学生たちを全力で後押しするとともに、免許を持っていることで、先生という職業に巡り合うかもしれない学生にも、教職の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

♪♪令和3年度 総会・研修会のご案内♪♪

【日時】 8月28日(土) 10:00~10:15 総会 10:20~12:30 研修会・情報交換会

【会場】 名古屋音楽大学 博聞館D101教室

【研修会】 『ジャズへのお誘い』 講師：名古屋音楽大学講師 小濱安浩先生(ジャズサクソフ)・卒業生
令和2年度、コロナ禍のため、中止にした研修会を行います。演奏を通してジャズの魅力を堪能するとともに、その構造などにも触れていただき、授業に活用できる知識を少しでも身に付けることができたらと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。なお、例年行っています懇親会は、時節柄中止いたします。

=事務局から= 『黙唱』今年度教育現場から、この言葉が聞かれたことがありました。また、多くの中学校では、『歌のない卒業式』が行われたとも聞いています。音楽科教員として寂しい限りです。先生方は、例年以上に授業を工夫され、大変であったことと思います。そのような中、「コロナ禍での音楽の授業」について寄稿していただきましたので、裏面に掲載しました。コロナが早く収束し、子どもたちの笑顔が溢れ、歌声が響く学校に戻ることを願っています。(ゆ)

＝特集＝ コロナ禍での音楽の授業

<小学校の実践例>

体を動かしながら鍵盤ハーモニカを演奏しよう

名古屋・笠寺小 平賀 真司(H14卒)

1. はじめに

コロナ禍の中、鍵盤ハーモニカ・リコーダーの演奏について、「前後2mの距離を確保し、向き合わずに演奏する」(教育活動再開後の対応について Ver4 名古屋市教育委員会 2020.9.9)とあった。そのときの特別支援学級A児(1年)に対する鍵盤ハーモニカの指導を紹介する。

2. A児の実態

A児は、該当学年の学習はほぼ理解することができる。しかし、ADHDであり、常に動いている様子が見られる。鍵盤ハーモニカを手にとると、音を出すことに喜びを覚え、常に音を出している。ドレミの音階の位置を教えると理解することができたが、音を出すことに夢中になり、曲のリズムに合わせる 것이 難しい。そこで、音階マット(資料①)を使って、リズムに合わせて演奏したり、友達と音出すタイミングを合わせたりすることができるようにした。(資料① 音階マット)→



3. 指導方法

① 音階と鍵盤の位置を理解できるようにする。

音階を色で示す。「赤:ド、朱:レ、黄:ミ、緑:ファ、水:ソ、青:ラ、紫:シ、赤:ド」とする。鍵盤に同じ色のシールを張り付け、音階マットも同じ色で作成する。マットを床に敷き、自分の乗っているマットで指示された音だけを出すようにする。

② 友達と同じ音でリズムを合わせられるようにする

音階マットを「ドレミファソラシド」と並べ、その横に同じ音が並ぶように横並びに音階マットを並べた。横に並んだ友達と、同時に同じ音を出すようにする。

③ 友達と異なる音でリズムを合わせられるようにする

音階マットを「カエルの合唱」のフレーズごとに並べた。横に並んだ複数の友達と、同時に異なる音を出すようにする。

4. 結果と考察

A児は、当初リズムや音階に関係なく、音を出す活動を楽しんでいたが、音階マットの活用によって、自分の動きを調整して指定された音を出したり、自分以外の人とリズムを合わせて、同時に音を出したりする姿につながった。また、同じ音を出すだけでなく、音の重なりを楽しむ姿にもつながった。

<中学校の実践例>

コロナ禍での合唱コンクール

名古屋・宮中 中村由美子(H16卒)

1. 6月学校再開 合唱コンクール開催に向けて

ガイドライン発表に、私も生徒も落胆した。情報が錯綜して先が読めない中、合唱コンクールの開催について音楽教師の判断を求められた。私には「中止」と「開催」の二つの気持ちが存在していたが、「可能性があるところまで進めよう」と行動を開始した。毎日情報収集し、名音大の先生や先輩、「めいおんの会」の諸先輩方にもご助言をいただいた。そして、管理職と話し合いを重ねた提案が承認され、教職員一丸となってコンクール開催に臨んだ。

2. 開催形式

体育館で実施した。(マスク着用、1.5m間隔で床、合唱台、舞台上の3列合唱隊形) 1学年ずつ、該当学年の保護者のみの観覧にした。入れ替え制で他学年は教室で同時中継を鑑賞した。

3. 練習方法

<音楽室>パート練習の隊形図や、歌唱の向き、マスク着用、換気、消毒について掲示し、徹底。2つの音楽室、廊下の3か所でパート練習。合わせは、音楽室に2パート、廊下に1パートで窓、ドアを全開にした。歌唱が不安な生徒には、強制的に歌わせるような取り組みにならないよう指導に配慮した。

<授業後練習>パート練習は各クラス3か所(教室、廊下と土間や渡り廊下等)、合わせ練習は体育館、格技場を割り振った。運動場は自由。当日は他学年の発表が聴けないので、学年を超えて行うクラス合唱交換会は例年より多く設定。CDプレーヤー、コードリール、指揮者用フェイスシールド、合唱台などを追加購入した。

4. 合唱コンクールの成果

制限の中、リーダーたちは個性あふれるアドバイスシートを多数発行し、学級団結に力を注いでいた。短縮された練習時間で効率よく歌うため、歌詞や楽譜を読み込む姿が増えてきた。本番はもちろん大成功し、大感動であった。コロナ禍であっても「合唱は心が震える!」と喜び合う姿に出会えた。その様子に対して、保護者からもご理解ご協力いただけたことも幸いであった。

